

病防第43号  
平成27年6月11日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病虫害発生予察注意報第1号を公表しましたので、送付します。

---

## 注 意 報

平成27年度病虫害発生予察注意報第1号

農作物名 イチゴ  
病虫害名 ハダニ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 育苗期
- 3 発生程度 多

### 4 注意報発表の根拠

- (1) 巡回調査における5月の育苗ほ（親株）の寄生葉率は、10.3%（平年3.3%）と平年より多い発生であった（図1）。
- (2) 病虫害防除員からの報告によると、5月の発生は平年比多～平年並であった。
- (3) 福岡管区气象台が6月4日に発表した、九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高い予想であり、ハダニ類の発生に好適な条件が続くと考えられる。

### 5 防除対策

- (1) 本ほに持ち込むと防除が困難となるため、育苗期の防除対策が重要である。
- (2) ほ場周辺の雑草は、発生源となるため除去する。
- (3) ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているため、老化葉は積極的に除去し、薬剤防除の際は、薬剤が葉裏に十分かかるように、丁寧に散布する。
- (4) 薬剤がかかりやすいよう、苗の間隔は十分に確保する。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、育苗期は、気門封鎖剤などの物理的資材を積極的に活用する。また、殺ダニ剤については、同一系統薬剤の連用を避けるため、育苗から本ほでの栽培期間を通し計画的に使用する。
- (6) 気門封鎖剤は、ハダニ類に直接付着しないと効果がないため、特に丁寧に散布する。また、卵への効果や残効性が無いため、5～7日の間隔で複数回散布する。
- (7) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して農薬の安全使用に努める。

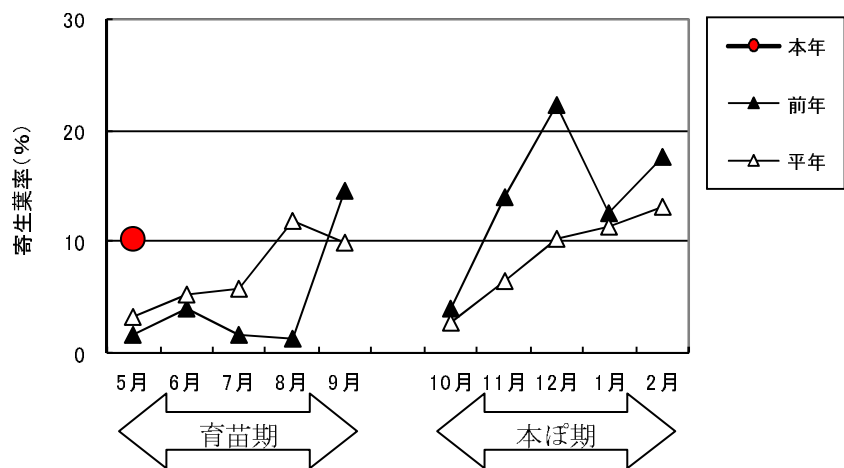


図1 巡回調査におけるハダニ類の寄生葉率の推移



写真1 ナミハダニ



写真2 ナミハダニ発生葉

熊本県病虫害防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病虫害研究室 予察指導係)  
 担当：児玉、荒木 TEL 096-248-6490